

2021年1月18日(月)

第3回 宇部市立図書館リニューアル市民委員会

開催報告書

宇部市立図書館リニューアル第3回市民委員会

1. 日時
2020年12月19日（土）10:00～12:00
2. 場所
宇部市立図書館講座室、Zoom
3. 参加人数
合計26人（会場参加：17人、オンライン参加：9人）
4. テーマ
「これからの”読書のまちづくり“を想像・想像しよう」
5. プログラム概要
 - ① これまでの振り返り
 - ② ワークショップ「これからの”読書のまちづくり“を想像・創造しよう」

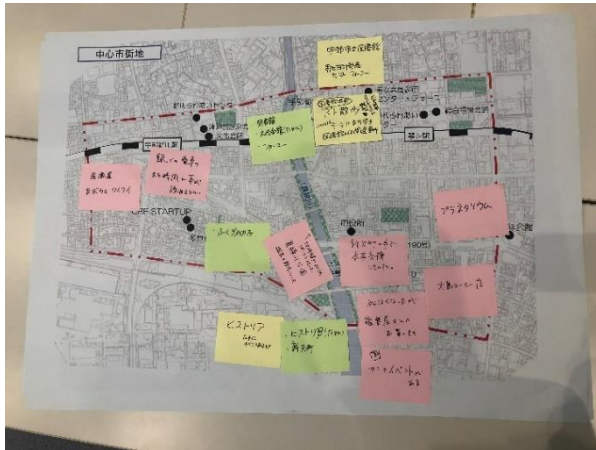
タイムテーブル

1部	10:00-10:05	はじめに・本日のプログラム（5分）	arg
	10:05-10:10	市民委員会の目標・これまでの共有（5分）	arg
	10:10-10:20	ワークショップの全体共有（10分）	arg
2部	10:20-10:55	ワークショップ（25分） 「これからの”読書のまちづくり“を想像・想像しよう」 （前半）	arg
	10:55-11:05	休憩（10分）	
	11:05-11:45	ワークショップ（40分） 「これからの”読書のまちづくり“を想像・想像しよう」 （後半）	全体
	11:45-11:55	各グループの発表（10分）	全体
	11:55-12:00	講評・閉会の挨拶・連絡事項（5分）	図書館

出典：arg

ワークショップの成果品

グループ A



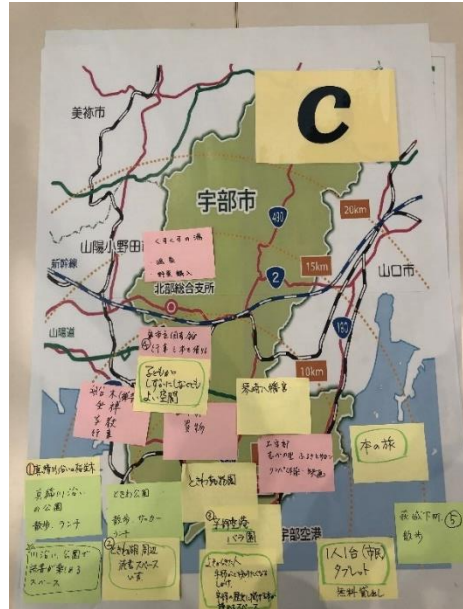
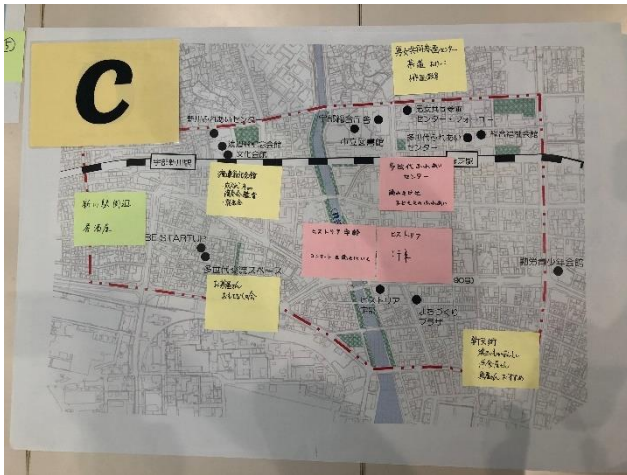
撮影：arg

グループ B



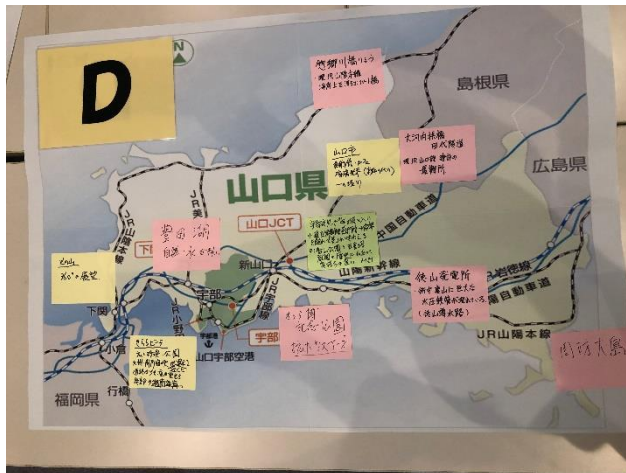
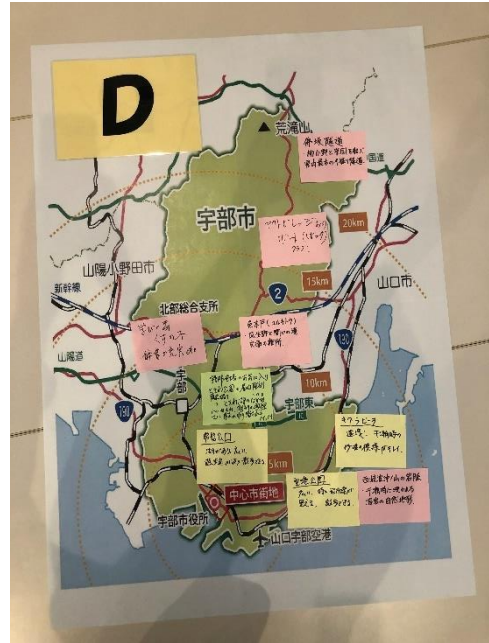
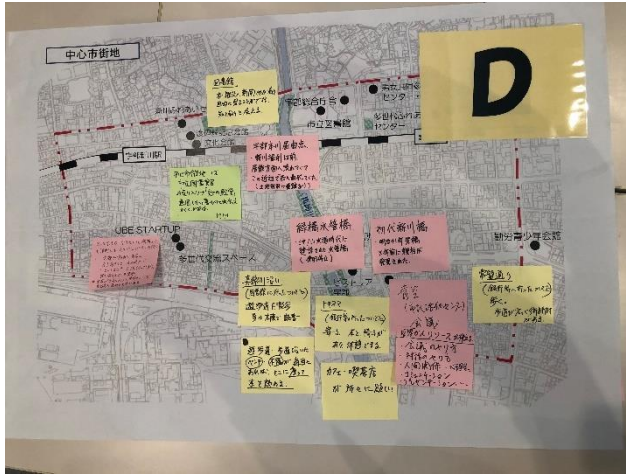
撮影：arg

グループ C



撮影：arg

グループ D



撮影：arg

オンライン参加者

【中心市街地活性化基本計画対象エリア】

多世代交流スペースとその周辺、渡辺翁記念会館前の広場、真締川沿い道路、旧井筒屋界限、かふえれすとらいぶ、新天町、ヒストリア周辺

【宇部市全域】

常盤公園、山口大学周辺の高台地域、山口宇部空港、宇部空港横の公園、厚南平野（沖の旦那開作あたり）から見た霜降山方向、霜降山、宇部港、宇部鴻城高校、ゆめタウン宇部、サンパークおのだ、江汐公園、宇部新川駅、永山酒造、宇部興産ビル、厚南地区（ゆめタウン近辺）

【宇部市外／宇部にはない場所】

湯本温泉、下関から角島にかけての道、YCAM、百道浜の市立図書館、山口市の美術館周辺、センザキッチン（長門）、海響館付近（下関市）、火の山公園（下関市）、竜王山（山陽小野田市）、黒目川流域（東京都東久留米市）、萩市内、秋吉台、JAZZ SPOT BOB（ジャズバー）、長門、東京上野、伊勢、山陽小野田市、下関市



場所	どんなところがお気に入りですか？
渡辺翁記念会館周辺	緑が多く広々としていて車が入ってこないところ
市立図書館からヒストリアあたりへの川沿いの遊歩道	水と緑が身近で車道と分けられているところ
旧井筒屋界限	社会実験中のカフェスペースを始めとして明るくてお洒落な雰囲気になっている



撮影：arg

考察

ワークショップ内で各グループが挙げたお気に入りの場所や、どんなことがしたいか、という意見から、図書館や読書がまちとつながるためにどのようなことが必要か考察し、仮説をたてた。

仮説①：まちなかの施設をつなぐ情報拠点の役割が求められている

お気に入りの場所として、ヒストリア宇部、男女共同参画センター・フォーユー、多世代ふれあいセンター等、市の公共施設が多く挙げられていた。宇部市は既に、市民の居場所となるような場所を複数整備しているが、それぞれの場所の認知が十分ではなく、また施設間の横の連携も希薄であるため、図書館がまちなかの施設をつなぎ、情報発信をする拠点の役割を担うことが求められていると考える。また、既存の「まちかどブックコーナー」をより魅力的な企画に改善することで、図書館、施設、まちをつなぐ機能になるのではないかと考える。

仮説②：まちづくりの拠点とつながることで、まちにひらかれた図書館になる

一部の市民活動に積極的な参加者からは、お気に入りの場所として、うべスタートアップや、若者クリエイティブコンテナ、コンフリ宇部等、まちづくりの拠点地が挙げられていたが、まだ一部の人にしか使われていない状況が推察された。これらの拠点と図書館がつながり、各施設での活動を可視化することで、認知度を向上し、参加者の間口を広げることができるのではないかと考える。また、図書館が能動的にまちづくりの拠点とつながることで、図書館としてもまちづくりに参加し、まちにひらかれた図書館になりうると考える。

仮説③：公園や空港との連携により、市民とのタッチポイントを増やすことができる

お気に入りの場所としてときわ公園やその他の身近な公園を挙げる人が多く、市民にとって公園が身近であることがうかがえる。図書館が公園と連携し拠点の一つとして活用することで、市民とのタッチポイントを増やすことができるのではないかと考える。また、宇部市の魅力のひとつとして山口宇部空港が市街地と近いことも挙げられるが、図書館と空港が連携することで、市外・県外の人に向けた情報発信を強化できるのではないかと考える。海外の事例で、オランダのスキポール空港にある「空港図書館」や、空港から電子書籍貸出サービスを利用できるカンザス州立図書館の取り組みがある。こういった取り組みも、空港と市街地の距離が近い宇部市だからこそ実現の可能性があるのではないかと考える。また宇部市で昨年開始した電子図書館サービスの認知が広がり、利用増加も期待できる。

参考：<https://current.ndl.go.jp/node/24032>

仮説④：潜在的にアートへの関心が高く、文化的な土壌を活かした情報発信が求められている

宇部市外のお気に入りの場所として、市外・県外の美術館が挙げられていた。宇部市では UBE ビエンナーレを開催しており、潜在的にアートへの関心が高いことがうかがえるが、現状の施設・機能では不十分であると感じ、市内にはない施設や機能を求めているとも考えられる。こうした背景をふまえて、今後 UBE ビエンナーレも含めたアート関係の情報発信は強化する必要があると考える。また現状では図書館と UBE ビエンナーレとの連携も弱いいため、宇部市の彫刻の取り組みが、まちなかで普段から身近に感じられる拠点として整備する必要があると考える。

仮説⑤：宇部市の魅力を再発見し、外部に発信する機能が求められている

今回のワークショップのなかで、宇部市外の人間が知らない場所や、広報として取り上げられることが少ない場所も多く知ることができた（ex.永山本家酒造や船木宿、琴崎八幡宮等）。こうした地元の人しか知らないような情報も貴重な資源であると考え。宇部市には、ときわ公園や、渡辺翁記念会館等、有名な名所が多いからこそ、埋もれている隠れた魅力を再発見し、再発信していくことも重要ではないかと考える。こうした情報を市民が持ち寄り、共有する場として図書館が機能することで、市民を中心とした協働での情報発信も可能になると考える。

以上